

平成20年度における飼料増産の取組の進捗状況の検証

(単位:ha)

	平成19年 ①	平成20年 ②	平成20年拡大目標		備考
			第1回行動会議時の配分		
			達成状況 ②-①	達成率	
全 国	897,200	901,500	20,000	4,300	21.5%
北 海 道	600,100	601,800	9,084	1,700	18.7%
青 森	23,400	23,000		-400	
岩 手	45,100	45,400		300	
宮 城	16,000	17,200		1,200	
秋 田	8,590	8,580		-10	
山 形	6,810	7,050		240	
福 島	13,400	13,400		0	
東 北 計	113,300	114,630	2,520	1,330	52.8%
茨 城	5,340	5,420		80	
栃 木	13,000	13,200		200	
群 馬	7,650	7,750		100	
埼 玉	1,350	1,430		80	
千 葉	3,150	3,280		130	
東 京	201	208		7	
神 奈 川	640	635		-5	
山 梨	1,090	1,100		10	
長 野	8,590	8,490		-100	
静 岡	2,260	2,360		100	
関 東 計	43,271	43,873	3,480	602	17.3%
新 潟	2,330	2,420		90	
富 山	803	822		19	
石 川	887	859		-28	
福 井	536	539		3	
北 陸 計	4,556	4,640	141	84	59.6%
岐 阜	3,310	3,390		80	
愛 知	2,030	1,980		-50	
三 重	548	617		69	
東 海 計	5,888	5,987	1,000	99	9.9%
滋 賀	460	530		70	
京 都	338	340		2	
大 阪	9	10		1	
兵 庫	2,160	2,170		10	
奈 良	83	85		2	
和 歌 山	69	65		-4	
近 畿 計	3,119	3,200	152	81	53.3%
鳥 取	3,810	3,780		-30	
島 根	2,440	2,390		-50	
岡 山	3,950	4,050		100	
広 島	2,710	2,660		-50	
山 口	1,710	1,680		-30	
徳 島	767	649		-118	
香 川	337	327		-10	
愛 媛	1,600	1,480		-120	
高 知	834	875		41	
中 四 国 計	18,158	17,891	1,011	-267	-26.4%
福 岡	2,500	2,620		120	
佐 賀	1,740	1,690		-50	
長 崎	9,660	10,100		440	
熊 本	20,900	21,300		400	
大 分	7,770	7,880		110	
宮 崎	30,800	30,900		100	
鹿 児 島	29,700	29,400		-300	
九 州 計	103,070	103,890	2,487	820	33.0%
沖 縄	5,650	5,720	125	70	56.0%

資料:農林水産省「耕地及び作付面積統計」

飼料作物作付面積の増減の理由

地域	作付面積 の増減	増減の理由
東北	1,330	
関東	602	
北陸	84	<p>平成19年：4,560ha→平成20年：4,640ha(80ha増)</p> <p>地域水田農業推進協議会へ飼料作物の位置付け向上・自給飼料生産拡大を働きかけたことにより、水田における飼料作物作付面積は170ha増加した。</p> <p>一方、畜産農家の減少や公共牧場の廃止に伴い、飼料作物作付面積が80ha減少した。</p>
東海	99	<p>東海地域の飼料作物作付面積は、5,980haで、前年産に比べて90ha増加。</p> <p>これは、水田を活用した飼料生産がすすみ、稲発酵粗飼料が前年の約2倍(70→136ha)、飼料用米が約3倍(76→206ha)と増加したことによる。</p>
近畿	81	<p>平成20年産飼料作物作付面積3200ha(+90ha)</p> <p>滋賀県を中心に稲発酵粗飼料の作付面積が拡大(+40ha)、また、飼料用稲の取組も拡大している。(5ha)</p>

		都府県酪農緊急対策において飼料作物作付面積が要件となっているため、これまで取組の少なかった奈良県・大阪府でも牧草の作付が増加。飼料価格高騰のため高収量・高栄養の青刈りとうもろこしの作付が拡大、併せて、ソルガムも増加した。
中国四国	-267	<p>飼料作物作付面積の今年度の拡大目標は、年度当初の耕畜連携推進協議会において1,011ha増としてきたところであり、各県で積極的な飼料増産活動が行われたものの、管内では飼料作物作付面積の微減の傾向が続いている(H19: 18,130ha→H20: 17,930ha)。</p> <p>管内では、農家の労働力不足や離農などにより飼料作物栽培面積のうち、牧草で愛媛県、広島県、島根県で減少、また、ソルゴーが徳島県で減少するなど管内の飼料作物の作付面積の減少の要因となっている。</p> <p>反面、飼料用稲の利用が543ha(対前年比112ha増)と着実にのびている他、次年度以降の飼料用米の利用を目指した試験栽培等も実施されている。また、地域によっては、水田放牧や青刈りとうもろこしの二期作栽培等、飼料増産への取組が積極的に行われている。</p>
九州	820	
沖縄	70	畜産担い手育成総合整備事業(再編整備型事業)による草地の造成整備高品質で多収性の優良草種トランスバーラの奨励・普及等

北海道	1,700	飼料作付面積 1,700ha増(目標+3,000ha) ※とうもろこし5,000ha増
青森	-400	酪農家戸数の減少により、青刈とうもろこし作付面積が減少したた

		め。 統計上の精査によるもの。
岩手	300	配合飼料価格の高騰により、高栄養飼料作物としての青刈りとうもろこしの作付が増加したこと 稲発酵粗飼料、飼料用米の作付が増加したこと
宮城	1,200	前年同様、水稻の生産調整作物としての作付け増加。 また、水田フル活用により冬作のライムギ等の作付け増加により飼料作物全体の作付けが増加した。
秋田	-10	水田を活用する稲発酵粗飼料や飼料用米の取組は緊急対策により大幅に増加。しかしながら、牧草作付面積が同程度減少している。 畜産農家の高齢化や労働力不足等により草地管理労力が低下していることが一因と思われる。
山形	240	飼料価格高騰等を背景に、それぞれの畜種において自給飼料増産意欲が高まった。他方で米生産調整に対応する必要があり、耕畜両者のニーズのマッチングにより稲WCSや飼料米の作付けが拡大した。 酪農家では、単位面積当たりの栄養収量の高い青刈りトウモロコシやソルゴー等の生産拡大が図られた。
福島	0	牧草や青刈りとうもろこしの作付面積は減少したが、水田を活用した耕畜連携による稲発酵粗飼料や飼料用米の作付けが増加したため、飼料作物作付面積は現状維持となった。
茨城	80	WCS
栃木	200	

群馬	100	2 20 H19 7,650ha H20 7,750ha
埼玉	80	80ha 1,430ha
千葉	130	
東京	7	
神奈川	-5	0.8 ha
山梨	10	
長野	-100	

静岡	100	2ha 59ha 41ha	8
新潟	90	公共牧場の休止等に伴い畑における作付面積が70ha減少した一方、稲発酵粗飼料の取組拡大などにより水田における作付が160ha増加したことによる。	
富山	19	水田転作での飼料作物の増加、飼料用米の作付などの新たな取組みにより、飼料作物作付面積は19ha増加(H19:803→H20:822)した。	
石川	-28	平成20年の県内の飼料作物作付面積859haについては、前年比較して、△28haとなった。これは、平成19年から既に飼料高騰対策として、自給飼料確保に取り組んでいたことにより、平成18年に比べ21ha飼料作物作付け面積が増加しており、平成20年の作付面積拡大に限界があったこと。また、経営不振、病気等から廃業する酪農家があり、飼料作物の作付が中止されたことによる。(酪農家数:平成19年88戸→平成20年79戸)	
福井	3	平成20年度飼料作物作付面積は、589ha(平成19年度587ha)。転作水田での稲発酵粗飼料、河川敷での牧草の作付けが拡大したことにより、昨年末実績に比べ2ha飼料作物作付面積が増加した。	
岐阜	80	東海地域の飼料作物作付面積は、5,980haで、前年産に比べて90ha増加。	

		これは、水田を活用した飼料生産がすすみ、稲発酵粗飼料が前年の約2倍(70→136ha)、飼料用米が約3倍(76→206ha)と増加したことによる。
愛知	-50	東海地域の飼料作物作付面積は、5,980haで、前年産に比べて90ha増加。
		これは、水田を活用した飼料生産がすすみ、稲発酵粗飼料が前年の約2倍(70→136ha)、飼料用米が約3倍(76→206ha)と増加したことによる。
三重	69	東海地域の飼料作物作付面積は、5,980haで、前年産に比べて90ha増加。
		これは、水田を活用した飼料生産がすすみ、稲発酵粗飼料が前年の約2倍(70→136ha)、飼料用米が約3倍(76→206ha)と増加したことによる。
滋賀	70	H20年産飼料作物の作付面積 530ha 前年産+70ha 増加した作物はソルゴー:27ha、飼料用米:13ha、牧草:11ha、WCS:10haで、大部分が水田における作付増 ソルゴー・牧草は畜産農家による作付拡大により増加 飼料用米、稲WCSは耕畜連携の取組により増加
京都	2	重点地区において、とうもろこし等長大作物の作付拡大の取組をすすめたため。
大阪	1	新たに酪農団地で0.2ha作付を行うとともに、都府県酪農緊急対策事業の取組要件として、新たに約2ha作付を行った農家があった。
兵庫	10	地域別の作付面積が不明であるため、詳細は判らないが、青刈りとうもろこしの減少は酪農家戸数の減少も影響していると推察される。

奈良	2	稲発酵粗飼料および飼料米の作付が増加した。
和歌山	-4	畜産農家の廃業や規模縮小等によりソルゴの作付面積が4ha減少した。
鳥取	-30	飼料価格の高騰に伴い自給飼料生産の重要性が認識された新たなコントラクター組合の発足によりとうもろこしの増産が図られた。 飼料用稲が基幹的転作作物として定着しており、増産傾向にある。 各種補助事業の活用と県の上乗せ助成による機械・施設整備に対する支援
島根	-50	国営開発地を活用した飼料作物生産、飼料米の新規作付、水田放牧・稲WCS等の水田飼料作物の組織的な拡大により、新規取組面積は目標よりも増加した。
岡山	100	耕畜連携を図ることにより、稲ホールクroppサイレージ等の水田を活用した自給飼料生産を推進したことで、作付面積が増加した。 飼料作物作付面積(農水省統計情報部) 4,050ha(対前年 100ha)
広島	-50	水田での飼料作物の作付け面積及び水田放牧面積が拡大したのに加え、稲発酵粗飼料用収穫機及び稲わら収集機等の整備により、稲発酵粗飼料作付面積や稲わら収集面積が拡大した(75ha)。
山口	-30	平成20年飼料作物作付面積:1680ha(△30ha) 水田での作付けは僅かに増加したが、畑での牧草、麦類の作付けが減少したため
徳島	-118	飼料作付面積は、徐々に減少している。その理由として、主に自給飼料を生産している酪農家が高齢化等の理由により、耕作できなくなったり、廃業し戸数が減少しているためである。近年、配合飼料価

		格高騰の影響から廃業する酪農家が急増しているため、今後も作付面積の減少が懸念される。
香川	-10	配合飼料価格高騰等の影響で稲わら等未利用資源の活用意欲が高まっているものの、飼料作物の作付けについては、労力不足や新たな機械導入による生産コスト面の課題があり、作付面積については、やや減少傾向にある。
愛媛	-120	本県では飼料作付面積が127ha増加している(県畜産課調査)。これは畜産農家が所有地や転作田などの借地へ作付拡大したことが大きい。耕種農家と畜産農家の連携による飼料用稲や水田裏での飼料作物作付も着実に増加している。また、稲わら等の収集面積も、耕畜連携による収集体制の確立により増加している。
高知	41	<p>【現状】</p> <p>○飼料作付面積は、ほぼ横ばいで推移(H20年度実績は微増 ※農林水産統計データ)</p> <p>【理由】</p> <p>○飼料高騰により、自給飼料生産の機運が高まった。</p> <p>○実証段階の地域も含め、稲WCS(再生稲含む)の生産が拡大。</p> <p>○新たに飼料用米の実証栽培・給与を開始。</p>
福岡	120	新たなコントラクターの設立や稲WCS・飼料用米等、転作作物として水田飼料作物へ注目が集まったことに加え、飼料価格の高騰から自給飼料を見直す機運が高まり、飼料作物の作付が拡大した。
佐賀	-50	・畜産農家が高齢化や飼料価格高騰などにより経営を中止したことにより、飼料作物作付面積が減少した。
長崎	440	

熊本	400	<p style="text-align: right;">+400ha 102</p> <p style="text-align: center;">%</p> <p style="text-align: center;">±</p> <p style="text-align: center;">60ha</p> <p style="text-align: center;">+25ha</p> <p style="text-align: center;">330ha</p>
大分	110	<p>平成20年産飼肥料作物作付面積は110ha増。主な理由は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料価格高騰や各種施策の推進により耕畜連携が進み、青刈り稲（WCS含む）が約36ha、飼料米が約54ha増加した
宮崎	100	<p>配合飼料価格高騰の中で、自給飼料増産運動の成果として、飼料用稲、飼料用米、とうもろこし等の作付は拡大したが、農家の高齢化や担い手不足等による作付減少要因も強く、100haの増に留まった。</p> <p>作付拡大：飼料用稲（380ha増）、飼料用米（75ha増）、 とうもろこし（70ha増）、えん麦（50ha増）、その他麦類（50ha増）</p> <p>作付減少：ソルゴー（220ha減）、イタリアンライグラス等牧草 （300ha減）</p>
鹿児島	-300	
沖縄	70	<p>畜産担い手育成総合整備事業（再編整備型事業）による草地の造成整備高品質で多収性の優良草種パンゴラグラス（品種：トランスバール）の奨励・普及等</p>